

非鉄金属市況と需給動向

2023年6月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族）

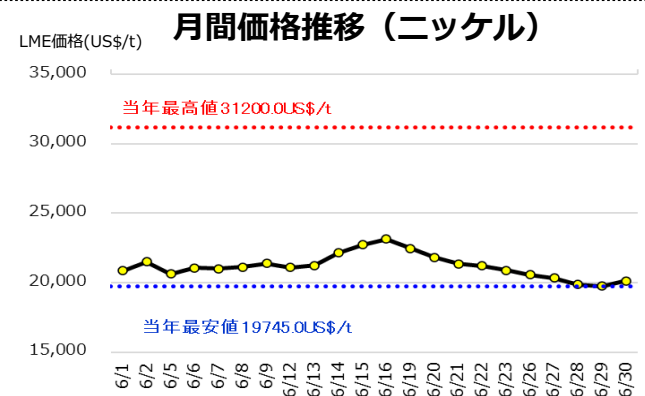
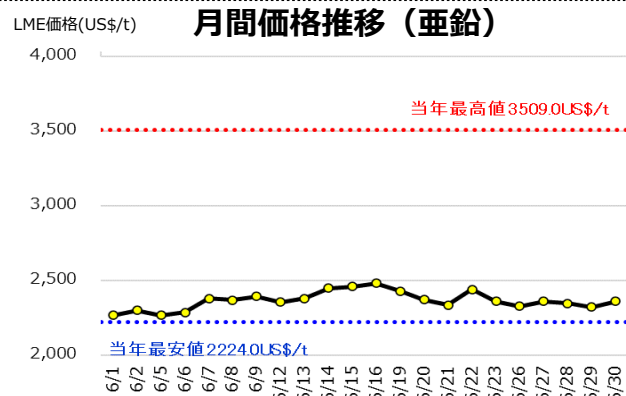
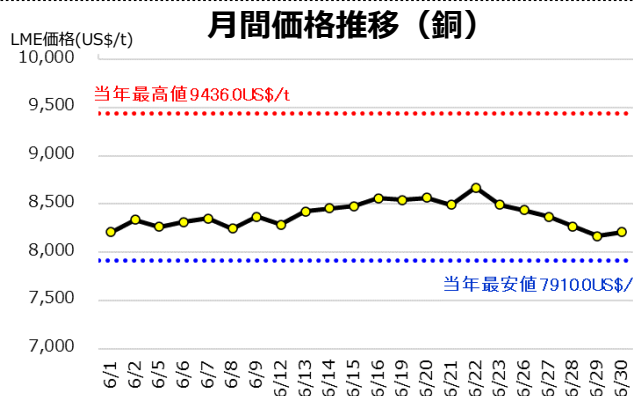
独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構

おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

銅・ニッケル、上旬は明るい経済ニュースにより上昇も、下旬は実需用低迷見込みから再び下落傾向 ■6月市況動向

- ① **銅、上旬は米金利据え置きや中国景気刺激策期待により上昇も期待が外れ、下旬は世界経済の不透明さから下落：**中国の5月財新製造業購買担当者景気指数（PMI）が50.9と予想に反して50を上回り、当月の銅は8,210.5US\$/tと上昇してスタートした。8日、米新規失業保険申請件数などの経済指標悪化によりドル安が進行し上昇した。13日、中国人民銀行による短期金利が引き下げられたことで新たな景気刺激策への期待が高まったほか、6月米国連邦公開市場委員会（FOMC）における米FRBの利上げが据え置かれたことも上昇支援材料となった。また、チリCandelaria鉱山やEscondida銅鉱山が一時操業停止したことや、火災によりスウェーデンBoliden社のRonnskar製錬所が操業停止したことなど、供給懸念も追い風となった。一方、堅調な経済指標にも関わらず世界的な実需用は低迷しているという見方が根強く、上昇幅は抑制された。19日、中国の景気刺激策の規模に対し落胆が広まり反落した。21日、米FRBのPowell議長が7月以降の追加利上げ必要性に言及したことや、人民元の急落により中国の銅地金輸入量が減退したこともさらなる圧迫要因となった。29日に当月最安値8165.5US\$/tをつけ、期末は8,210.0US\$/tで越月した。
- ② **亜鉛、需要の低迷による下落が、鉱山操業コストの採算性悪化による減産懸念に相殺され横ばい：**当月の亜鉛は2,271.0US\$/tでスタートした。初旬は銅と同様に、中国景気への期待と米国利上げ減速により上昇傾向となった。14日、低水準の価格による利益減のため、Boliden社のTara鉱山がメンテナンスに入った。亜鉛鉱山の操業については、価格が足元は上昇しているものの年初以来で30%以上下落しており、稼働年数が長く操業コストの高い鉱山は収益性が悪化し操業に影響するという可能性が指摘されていた。Tara鉱山が操業停止したことで改めてこの懸念が顕在化し、世界経済への不透明さへの強い下支え要因となった。23日、米Newmont社がストライキによりメキシコPenasquito鉱山からの出荷に対する不可抗力を宣言した。需要低迷への警戒はあるものの供給不安に相殺され、期末は2,363.0US\$/tと期初よりやや上昇して終了した。
- ③ **ニッケル、インドネシアによる供給過剰感に圧迫される：**当月のニッケルは、20,850.0US\$/tでスタートした。銅と同様の世界経済動向に影響されており、上旬は上昇、下旬は下落という動きを見せた。一方、ニッケルはインドネシアでの堅調な増産に加えて、依然低迷する中国経済によりEV需要の伸び率やステンレス向け需要が鈍化しており供給が過剰気味であるという見方が強い。INSGの4月需給バランスは20,500tの供給過剰と過剰幅は拡大しており、示唆された市場の供給余剰感が期を通して重しとなった。29日には当年最安値19,745.0US\$/tをつけ、期末は20,125.0US\$/tで越月した。



需給動向 -銅-

ICSG発表の2023年4月需給バランスは5か月連続で供給過剰、一方チリ・米国減産で鉱石生産量は減少

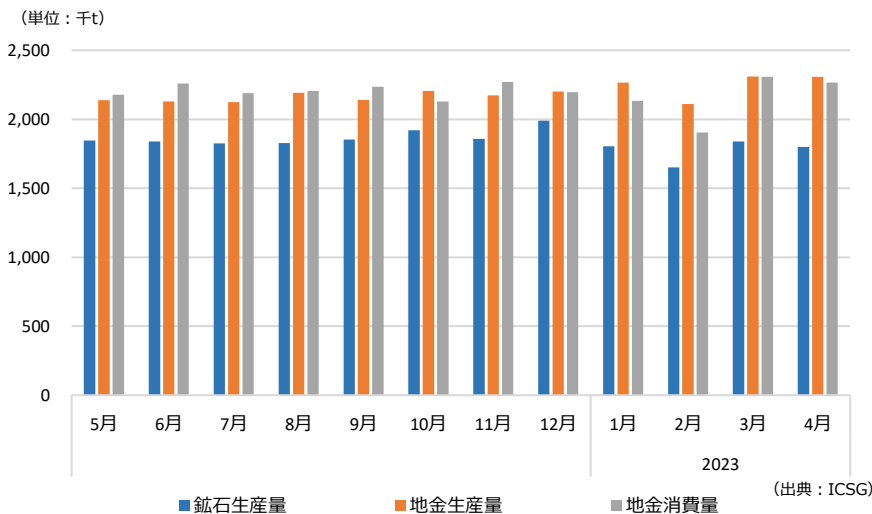
■需給動向（6月発表分）

- ① **2023年4月世界鉱石生産量は前月比2.2%減と微減**：国際銅研究会（ICSG）によると、2023年4月の世界鉱石生産量は1,800千tで、前月比2.2%減となった。粗鉱品位の低下や干ばつの影響によりチリで微減したほか、米国で20%以上減産した。ペルーではQuellaveco鉱山やCuaajone鉱山、Las Bambas鉱山などで堅調に増産したが、増加幅は小さかった。
- ② **2023年4月需給バランスは42千tの供給過剰に**：ICSGによると、2023年4月の世界地金生産量は2,307千tで前月比0.1%減、地金消費量は2,265千tで前月比1.8%減となった。需給バランスは42千tの供給過剰となり、5か月連続の供給過剰となった。
- ③ **2023年1～4月世界鉱石生産量は前年同期比2.5%増**：ICSGによると、2023年1～4月の世界鉱石生産量は7,096千tと前年同期比2.5%増となった。同比16%増となったペルーと、Kamoa Kakula鉱山拡張により推定同比15%増となったDRコンゴが増産に大きく貢献した。一方、降雨と地すべりによりGrasberg鉱山が一時操業停止したインドネシアでは5%減、輸出制限によりCobre Panama鉱山の生産が一時中断したパナマでは12%減となった。

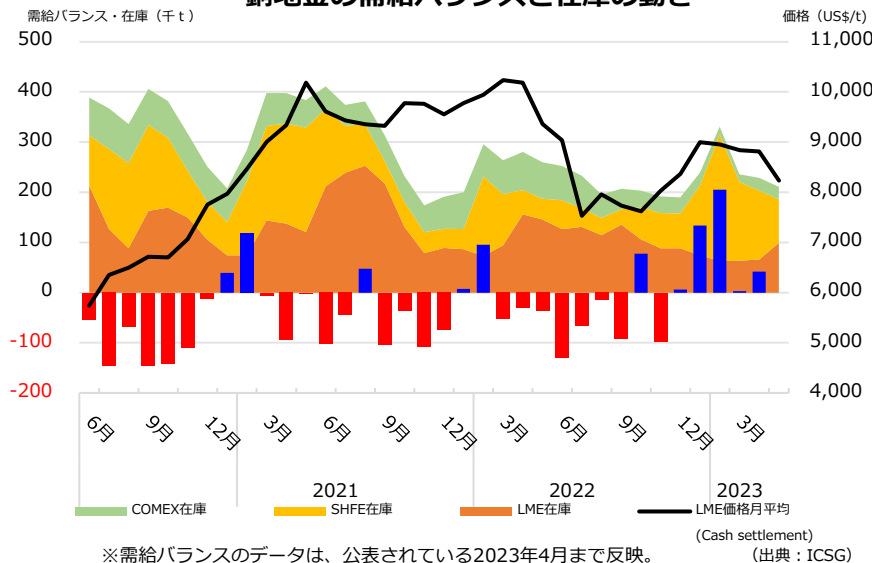
■企業動向

- ① **Lundin Mining社（加）**：チリ環境裁判所より、チリAlcaparrosa銅鉱山の閉鎖を命じられる。一方、同社は同裁判所の判断理由は不十分につき控訴予定と発表（8日）。
- ② **Glencore（スイス）**：豪NSW州CSA銅鉱山を米Metals Acquisition社へ売却（16日）。
- ③ **Boliden社（スウェーデン）**：火災により、Ronnskar銅製錬所からの出荷に対し不可抗力を宣言（16日）。
- ④ **Hudbay Minerals社（加）**：加Copper Mountain Mining社の買収が完了し、完全子会社化。同買収により同社はカナダで3番目の銅生産会社になる見込み（20日）。
- ⑤ **Rio Tinto（英・豪）**：米UT州Kennecott銅鉱山および製錬所に920mUS\$の増産投資を決定（20日）。
- ⑥ **CODELCO（チリ）**：豪雨により、チリValparaíso州Andina銅鉱山、O'Higgins州El Teniente銅鉱山の一部操業を停止（23日）。Andina鉱山は操業を再開も、El Teniente鉱山は依然露天掘りおよび一部施設を操業停止（26日）。

銅鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



銅地金の需給バランスと在庫の動き



需給動向 -亜鉛-

ILZSG発表の4月需給バランスは3か月連続で供給過剰、一方需要増により供給過剰幅は縮小が続く

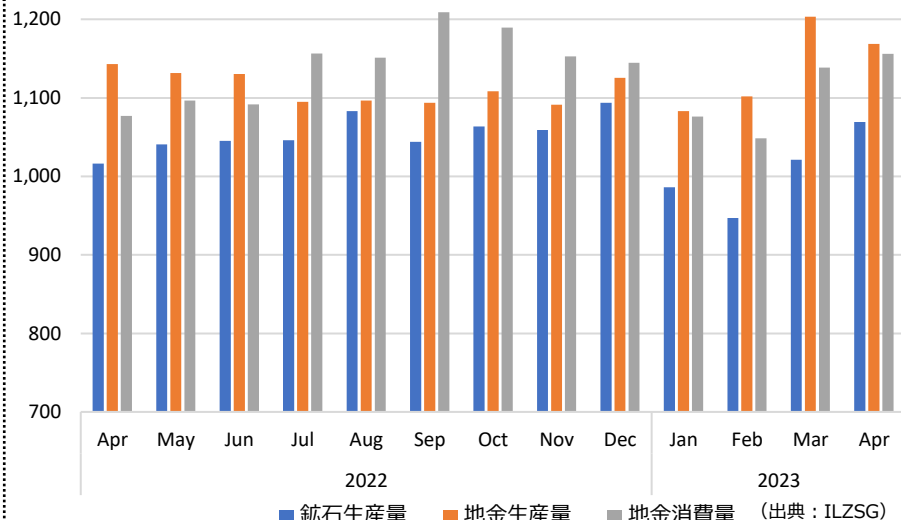
■需給動向（6月発表分）

- ① **2023年4月鉱石生産量は増加**：国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）2023年6月発表によると、2023年4月の鉱石生産量は1,069.4千t（対前月比4.7%増、48千t増）と2か月連続で増加した。ペルーで、地域社会の抗議活動があるにもかかわらずAntamina鉱山が堅調に増産し、41.6%と大幅増産した。その他米国・中国でそれぞれ9.5%、3.6%増産したことも影響した。
- ② **2023年4月需給バランスは3か月連続で供給過剰**：ILZSGによると、2023年4月の地金生産量は1,168.6千t（対前月比2.9%減、34.9千t減）、地金消費量は1,156.1千t（対前月比1.5%増、17.6千t増）で12.5千tの供給過剰となった。地金生産量は、雲南省を始め電力高騰により生産が抑制されている中国で4.1%減産した。一方、地金消費量は中国・ドイツ・イタリアなどで増加した。需給バランスは3か月連続で供給過剰となったが、消費量の増加により過剰幅は縮小し続けている。
- ③ 2023年1～4月需給バランスは137.6千tの供給不足：ILZSGによると、2023年1～4月需給バランスは、低迷する消費量により137.6千tの供給過剰となった。

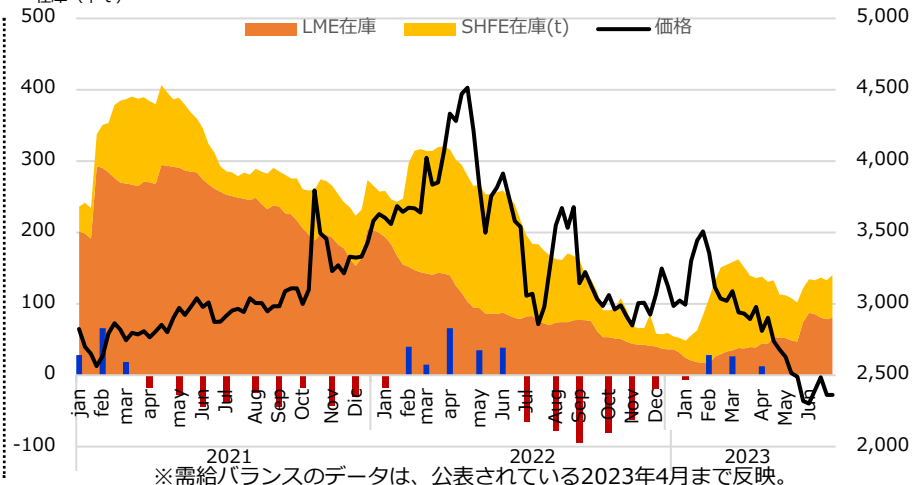
■企業動向

- ① **Glencore（スイス）**：独Nordenham亜鉛製錬所を、2023年夏ごろに再稼働する計画を発表（9日）。
- ② **Boliden社（スウェーデン）**：亜鉛価格の下落やコストインフレによる採算悪化により、アイルランドTara亜鉛・鉛鉱山を操業停止（13日）。
- ③ **Polymetals Resources社（豪）**：豪NSW州Endeavor亜鉛・鉛・銀鉱山の鉱山再開調査（MRS）を開始（19日）。
- ④ **Newmont社（米）**：ストライキにより、メキシコPeñasquito亜鉛鉱山を操業停止（8日）。さらに同鉱山からの出荷の一部に対し、不可抗力を宣言（23日）。
- ⑤ **Appian Capital Advisory社（英）**：加Trevali Mining社からナミビアRosh pinah亜鉛・鉛鉱山の株式90%を取得。売買契約の一環として、Appian社は同鉱山の拡張プロジェクトを再開する予定（27日）。

（単位：千t） 亜鉛鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



需給バランス・在庫（千t） 亜鉛地金の需給バランスと在庫の動き



需給動向 - ニッケル -

尼政府、Class2Niの輸出税課税を国内市場の供給過剰を理由に延期、PT HPLは硫酸Niを生産開始

■需給動向（6月発表分）

- ① **2023年4月プライマリーニッケル需給バランス**：国際ニッケル研究会（INSG）2023年6月発表によると、2023年4月の世界ニッケル需給バランスは**20.5千tの供給過剰**となった。需給バランスは直近1年間供給過剰傾向となり、供給過剰幅は前月と比較して約4倍となった。
- ② **2023年4月のニッケル生産・輸出状況**：INSGの国別データによると、インドネシアのプライマリーニッケル生産量が112.5千t（前月102.5千t）となった。また、同国からのニッケルマットの輸出は、中国向けと日本向けが微増したほか、少量韓国にも輸出があった一方で、ノルウェー向けの輸出がなかった模様。

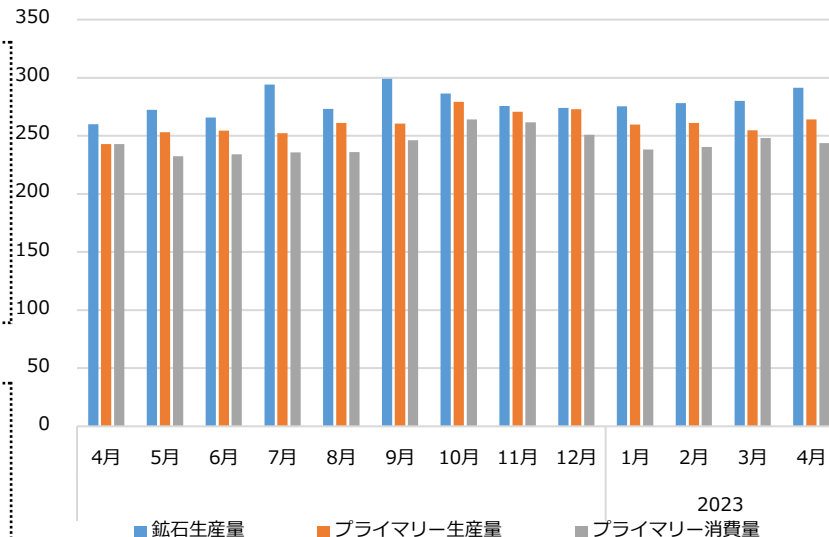
■関連動向

- ① **尼、Class2ニッケルへの輸出課税を延期**：Septian Hario Seto海事・投資担当副大臣は、国内のニッケル銑鉄市場が大幅に供給過剰であること、国内価格指標の欠如を理由にClass2ニッケル輸出税課税を延期することを発表（5月31日）。
- ② **英コンソーシアム、尼に9bUS\$投資**：英コンソーシアムは、インドネシアの電気自動車（EV）バッテリーや鉱業に9bUS\$投資することを公表。コンソーシアムには、Glencore、PT Antam、白Umicore、中Envision Groupが含まれる（5月31日）。
- ③ **Arifinエネルギー鉱物資源大臣、PTVIに株式売却要請**：PT Vale Indonesia（PTVI）の操業ライセンス期限は2025年12月。Arifinエネルギー鉱物資源大臣は、2024年12月までに外国資本が保有する11%の株式をインドネシア国内投資家に売却する必要があると述べた（17日）。
- ④ **LME、2022年3月の取引停止に関する裁判開始**：2023年3月にLMEニッケル先物価格が暴騰し、LMEは約12bUS\$の取引を無効とした件、米Elliott Associates社と米Jane Street Global Trading社はLMEを提訴、20日に裁判を開始（19日）。

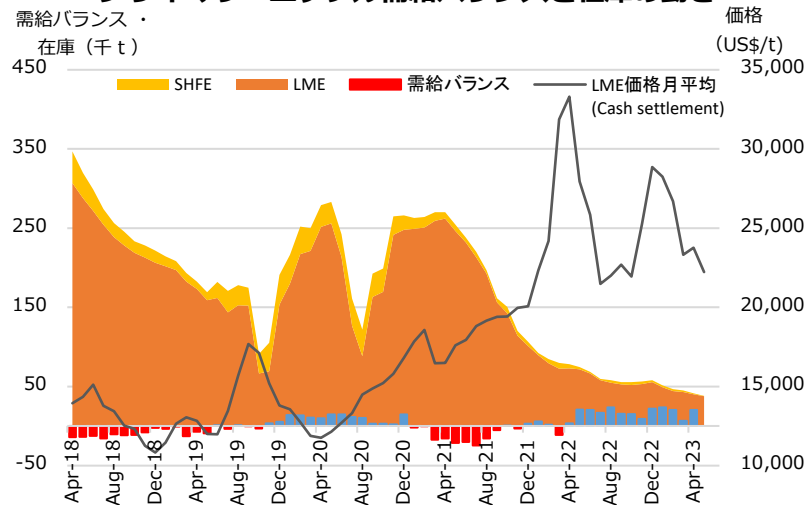
■企業動向

- ① **PT Halmahera Persada Lygend（HPL）（尼）**：Obi島の硫酸ニッケル工場を開設、ニッケル純分で54千t/年の生産能力（2日）。
- ② **Outokumpu社（フィンランド）**：加FPX Nickel社の株式9.9%を11m€で取得（7日）。
- ③ **PT Merdeka Battery Materials（尼）**：PT Huaneng Metal Industryの高品位マット製錬所の権益60%を取得（7日）。

（単位：千t） 鉱石生産量・プライマリーニッケルの生産量と消費量



プライマリーニッケル需給バランスと在庫の動き



※需給バランスは2023年4月まで、LME・SHFE在庫は2023年5月まで反映。

需給動向 -金・白金族-

金は欧米主要銀行の利上げ継続姿勢で、白金族は中国の新エネルギー車購入税減免政策の継続で下落が続く

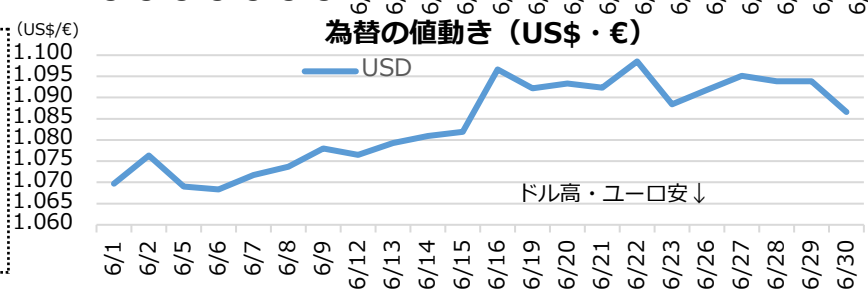
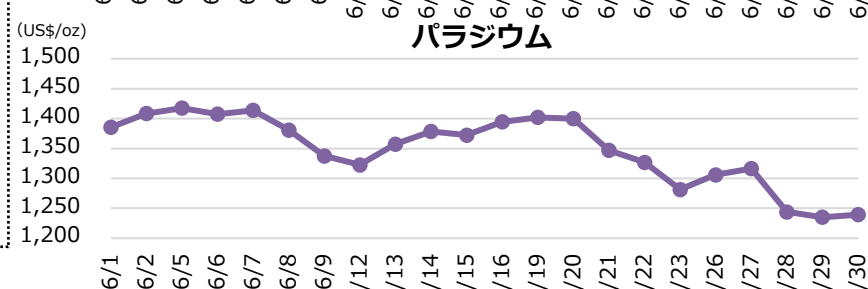
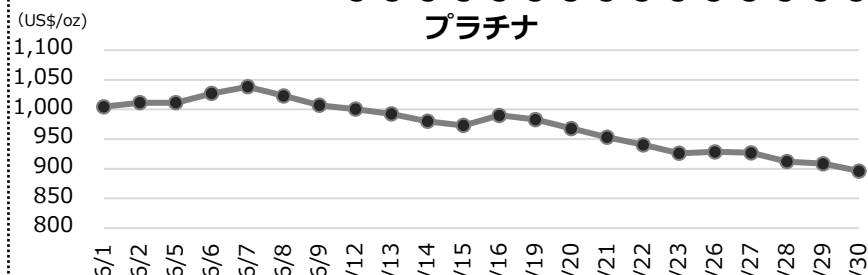
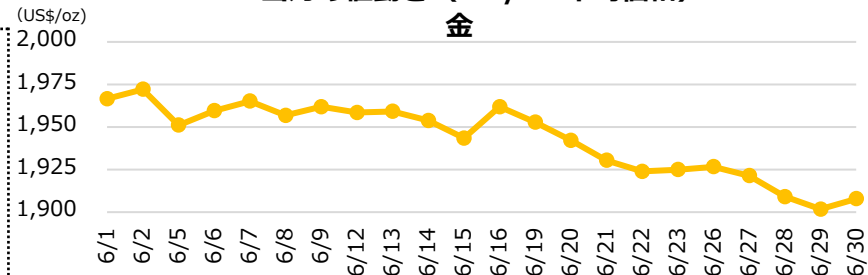
■金市況動向

- ① **米の弱い経済指標や露宇関係悪化で一時上昇**：当月1,966.6US\$/ozでスタート。1日、米連邦議会上院が下院に続いて債務上限停止法案を可決しデフォルトは回避されたが、翌2日発表の米失業率が3.7%と前月（3.4%）より上昇したこと等から利上げ見送り観測が浮上し、当月最高値1,972.1US\$/ozをつけた。週明け、一旦値を下げるも、6日、ウクライナ南部Kakhovka水力発電所が露軍に破壊されたと宇軍が発表、露宇間の緊張感の高まり懸念から上昇に転じた。8日に発表された米新規失業保険申請件数が261千件と予想（235千件）を上回ったが、既に高値の中での上昇要因としては弱く、14日のFOMC（連邦公開市場委員会）声明発表待ちから様子見ムードとなり、1,960US\$/oz付近で横ばい推移した。
- ② **欧米主要銀行等の利上げ継続姿勢で下落が続く**：14日に開催されたFOMCで追加利上げが示唆されたことで下落、翌15日は1,950US\$/ozを切ったが、翌日16日はドル安が進行し1,960US\$/oz台に回復した。しかしその後は緩やかに下落、週明け21日にFRB（米連邦準備制度理事会）のPowell議長が「2023年末までにいくらかの利上げが必要」と述べたほか、欧米の主要銀行がインフレ抑制のため利上げ継続の姿勢を見せ、英中央銀行が22日、通常の2倍の利上げを決定等でさらに下落した。23日発表の米製造業PMIが46.3と予想（48.5）よりも下回ったことで米長期金利が低下、1,925US\$/oz付近で下げ止まった。
- ③ **一時的な露宇の地政学リスクで上昇も、堅調な米経済指標で下落**：24日、露民間軍事会社Wagner社が軍を露首都Moscowまで進軍させると発表、露宇関係の緊張が一時的に高まったが、たった1日で進軍停止を表明したためさほど影響は出なかった。28日発表の米経済指標（新規住宅販売件数の増加等）を受け下落、29日に当月最安値の1,901.8US\$/ozをつけ、1,907.9US\$/ozで越月した。

■白金族（PGM）動向

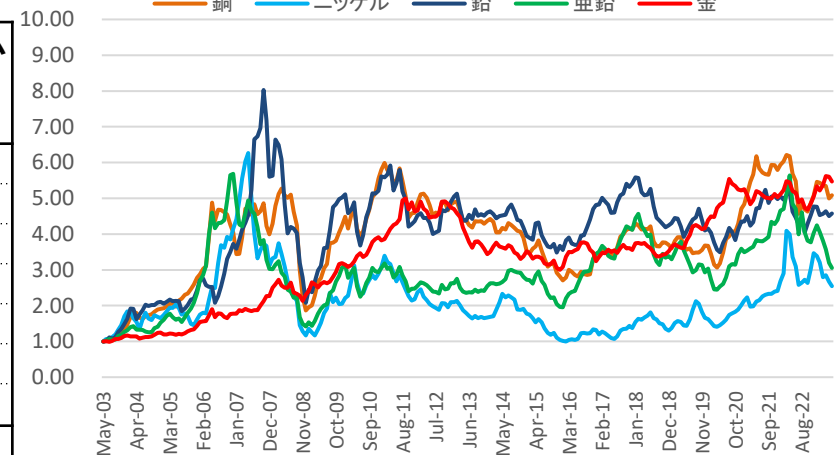
- ① **市況**：中国の景気減退懸念に加え、中国で新エネルギー車購入税減免政策を2027年まで継続と発表、ガソリン・ディーゼル車の需要減少懸念から月を通じて下落基調となった。当月1,004.5US\$/oz(Pt)、1,385.5US\$/oz(Pd)でスタート、7日および6日にそれぞれ当月最高値の1,038.5US\$/oz(Pt)、1,417.5US\$/oz(Pd)をつけ、パラジウムは29日に1,235.0US\$/ozの当月最安値かつ2018年12月以来の安値の後、896.0US\$/oz(Pt当月最安値)、1,239.5US\$/oz(Pd)で越月した。

当月の値動き（AM/PM平均価格）

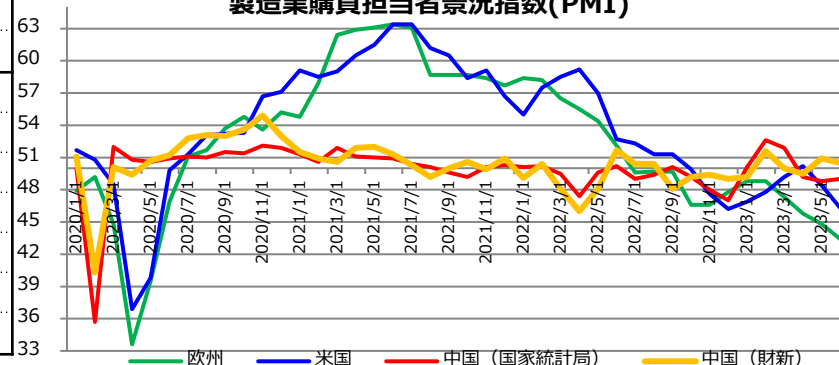


主要非鉄金属の価格推移
(2003年5月 = 1)

(JOGMEC作成)



製造業購買担当者景況指数(PMI)



		銅 LME現物 (US\$/t)	亜鉛 LME現物 (US\$/t)	ニッケル LME現物 (US\$/t)	金 AM・PM平均 (US\$/oz)	プラチナ AM・PM平均 (US\$/oz)	パラジウム AM・PM平均 (US\$/oz)
本報告期	期 初	8,210.50	2,271.00	20,850.00	1,966.55	1,004.50	1,385.50
	期 末	8,210.00	2,363.00	20,125.00	1,907.90	896.00	1,239.50
	最高値	8,670.50	2,485.00	23,140.00	1,972.13	1,038.50	1,417.50
		6月22日	6月16日	6月16日	6月2日	6月7日	6月5日
	最安値	8,165.50	2,271.00	19,745.00	1,901.83	896.00	1,235.00
		6月29日	6月1日	6月29日	6月29日	6月30日	6月29日
	平均	8,386.23	2,368.11	21,192.95	1,943.26	972.80	1,348.89
先物 (6月30日)	3か月	8,210.00	2,363.00	20,275.00	—	—	—
	24-Dec	8,215.00	2,293.00	21,370.00	—	—	—
	25-Dec	8,230.00	2,403.00	22,270.00	—	—	—
2023年 (当年)	期 初	8,390.00	3,004.00	31,200.00	1,839.15	1,084.00	1,799.50
	期 末	8,210.00	2,363.00	20,125.00	1,907.90	896.00	1,239.50
	最高値	9,436.00	3,509.00	31,200.00	2,040.38	1,113.00	1,811.50
		1月18日	1月27日	1月3日	5月4日	5月10日	1月9日
	最安値	7,910.00	2,224.00	19,745.00	1,813.85	896.00	1,235.00
		5月24日	5月25日	6月29日	2月27日	6月30日	6月29日
	平均	8,702.87	2,834.75	24,204.56	1,931.52	1,009.29	1,505.39

米国経済	6月の製造業PMI (IHS Markit社発表) は46.3 (前月: 48.4、予測: 46.3) と予想通り前月より下落した。6月非農業部門雇用者数 (米国労働省発表) は前月比20.9万人増 (前月: 30.6万人増、予測: 25.0万人増)、失業率は3.6% (前月: 3.7%、予測: 3.7%) となった。雇用の伸びは鈍化する一方失業率は50年ぶりの低水準まで低下し、労働市場は減速しているものの回復力はあることを示唆した。
中国経済	6月製造業PMIは、国家統計局発表は49.0 (前月: 48.8、予測: 49.1)、財新発表は50.5 (前月: 50.9、予測: 50.1) と前月比でほぼ横ばいだった。
欧州経済	6月製造業PMIは43.4 (前月: 44.8、予測: 43.6) と12か月連続で50を下回り、経済の縮小を示している。